



23 中牟田三治郎 きつね

一点

昭和四年(一九二九) ブロンズ  
総高五三・〇

中牟田三治郎(一八九二―一九三〇)は夭折の彫刻家である。大正十年に東京美術学校彫刻科を首席で卒業したものの、三度の帝展出品と昭和初期の在野の彫刻家団体である構造社の初期展覧会に数度出品した他は、主な出品機会は少なく、構造社の特徴として建築彫刻を重視する制作傾向もあって、現存する作品は少ない。本作は昭和四年の第三回構造社展に出品された三点の作品のうちの一つ。題名が意味する通り、左手の肘から先の部分で影絵のきつねのポーズをかたどった塑像である。ぬつと突き出した手だけを作品とする意表を衝く発想は、彫刻のみならず詩作や小説にも才を発揮した中牟田ならではのものである。だが、作品全体に塑造の風合いを残しながら、それぞれの指にかかる筋肉の緊張や関節の隆起をあらわした細やかな表現などは、たんなる発想崩れに終わらない中牟田のすぐれた観察眼と彫塑技術を実証するものである。中牟田の没後、遺作集を刊行した構造社の齋藤素蔵からは「不遇な作家」であったと回顧されたが、近年、構造社の活動が回顧されるにあたり、この「きつね」の現存によって中牟田の比類のない個性が見直されることになった。本作は秩父宮家の所蔵となり、雍仁親王がいつも身近にお飾りになっていた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections